

省燃費運転研修会 フォローアップアンケート調査結果

【回答結果】

送付総数	152件
有効回答数	41件
退職・住所不明	9件

省燃費運転研修会フォローアップアンケート調査結果【まとめ】

各設問におけるアンケート結果の傾向を以下に記す。

Q1. あなたは、省燃費運転研修会をどの機種で受けましたか。

アンケート送付総数(研修会受講者総数)152名のうち、116名(76.3%)がダンプ・トラックで占めているということもあり、合計回答数43名のうち34名(82.9%)がダンプ・トラックの研修受講者であった。機種別の回答率は、ダンプ・トラックが27.0%、油圧ショベルが29.4%、廃棄物運搬車が0%、ラフテレーンクレーンが22.2%である。

Q2. あなたは、先般受講した省燃費運転を現在も実践していますか。

「毎日実践している。」が28名(68.3%)、「時々実践している。」が11名(26.8%)で、その両者を合計すると39名となり、約95%の回答者が省燃費運転を実施しているという結果であった。また、「実施していない。」とした回答者はゼロであり、残りの2名は「仕事内容が変わったため、実践できない。」とのことで、アンケート回答者の省燃費運転実施に関する姿勢は、ほぼ満足のいくものであることがいえる。

Q3. あなたは、あなたの受講した省燃費運転を同僚、仲間に広めていますか。

「積極的に広めている。」が8名(19.5%)、「広めている。」が31名(75.6%)で、その両者を合計すると39名(約95%)となり、前向きな姿勢が見受けられる。その反面、「広めていない。」との回答も2名あり、その理由としては、「省燃費運転では仕事にならないとの意見が多い。」となっている。

Q4. あなたの会社では、あなたの受けた省燃費運転研修会をどのような位置づけにしていますか。

「研修会受講は昇進、昇給の一要素として評価している。」との回答は1名と極めて少ないが、「省燃費運転研修会を奨励しており、受講者増員のため自社開催も行っている。」が11名(26.8%)、「他主体の行う省燃費運転研修会に対しても積極的に社員参加の要請を行っている。」が25名(61.0%)となっており、個人へのインセンティブ付与へは至っていないものの、省燃費運転に対する企業の意識は高い傾向であるということがうかがえる。

Q5. あなたの行っている現場から省燃費運転の実施の働きかけがありましたか。

「省燃費運転研修会の開催があった。」が4名(9.8%)、「新規入場者教育で資料配付と、説明があった。」が5名(12.2%)、「アイドリングストップについて指導を受けた。」が26名(63.4%)であり、多くの現場ではアイドリング指導のみに留まっているということがわかる。また、「なにもない。」との回答も6名(14.6%)あり、省燃費運転の現場への普及・展開の余地はまだ残されているということが明らかとなった。

Q6. 省燃費運転は燃料の節約に効果があると思いますか。

「効果がある。」が29名(70.7%)、「効果はあると思うが、実際に実行するのは難しい。」が12名(29.3%)となっており、100%の回答者が燃費節約効果に理解を示しているが、うち3割は実際の仕事上は実施することは難しいとしている。これは、省燃費運転実施について過度に受け取っているところにあると考えられる。決して完璧な省燃費運転を目指す必要はなく、できるところから実施すればいい、との認識を持たせることが、今後の課題である。

Q7. 今後、省燃費運転活動を続けていくためには、あなたはどんなことが必要であると思いますか。

本設問に対する主な回答をまとめると、下記ようになる。

研修会の開催は、積極的に開催を進めるとともに業界に広くアピールし、大勢の人たちに参加してしてもらいたい。

研修会には、運行管理者の参加を増やすとともに、より多くの運転者が参加できるようにしてほしい。

運転者の意識向上を図り、できることから、みんなで実践し定着化を図ることが重要。

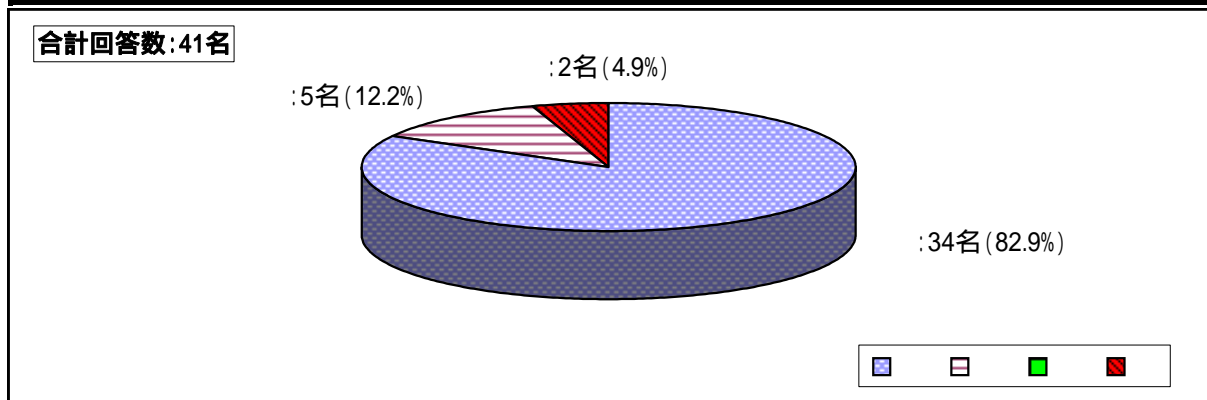
各会社・工事現場においては、運転手の再教育や新人教育の実施、短時間の講習会の開催を行う等、積極的に教育・普及に力を入れていくべきである。

「デジタコ」を活用する等、走行データに関する管理を実施し、運転者に自覚を持たせることが必要。運転者への何らかのメリットがあれば、より効果的である。

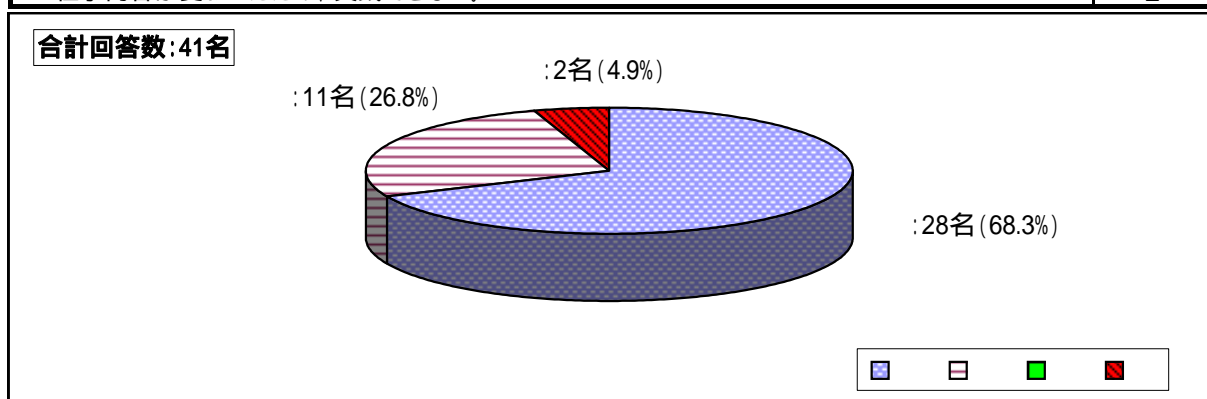
以上

省燃費運転研修会フォローアップアンケート調査結果【1】

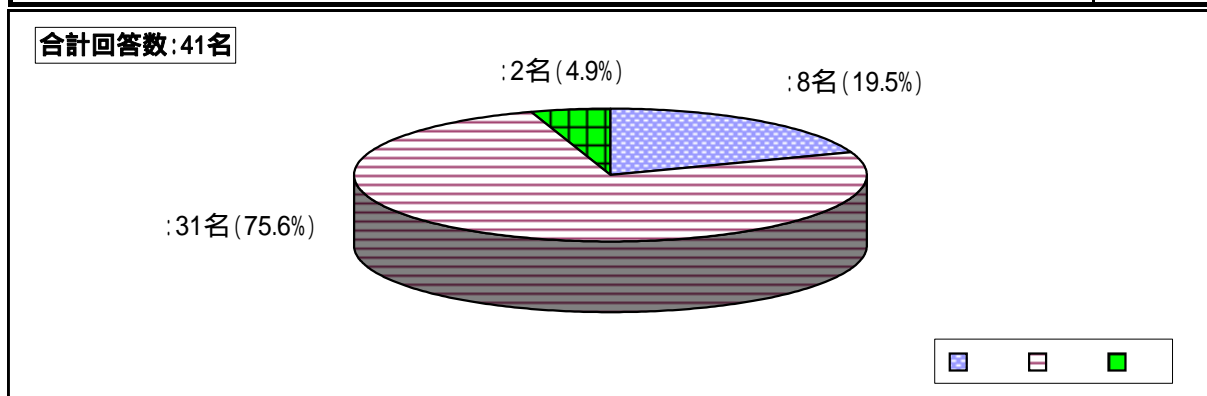
Q1. あなたは、省燃費運転研修会をどの機種で受けましたか。	回答数
ダンプ・トラック	34
油圧ショベル	5
廃棄物運搬車	0
ラフテレーンクレーン	2



Q2. あなたは、先般受講した省燃費運転を現在も実践していますか。	回答数
毎日実践している。	28
時々実施している。	11
実践していない。	0
仕事内容が変わったため、実践できない。	2



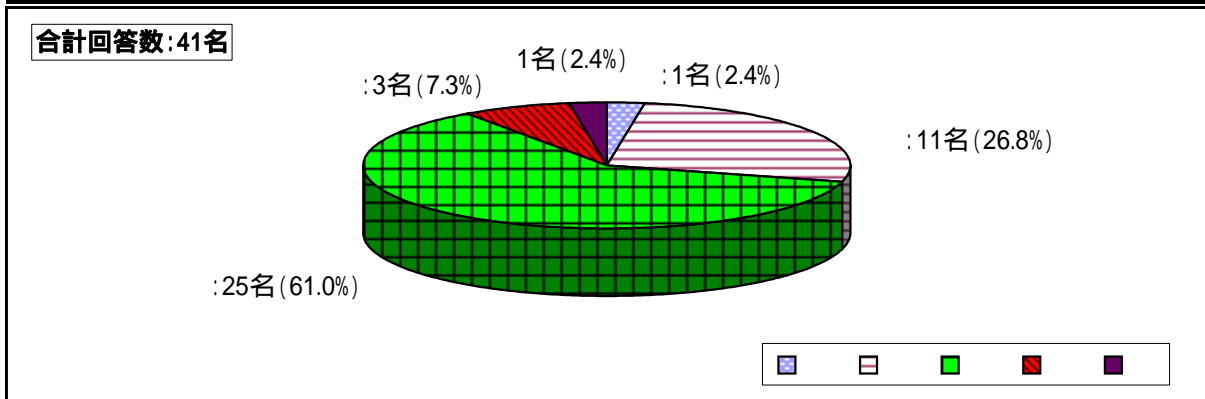
Q3. あなたは、あなたの受講した省燃費運転を同僚、仲間に広めていますか。	回答数
積極的に広めている。	8
広めている。	31
広めていない。	2



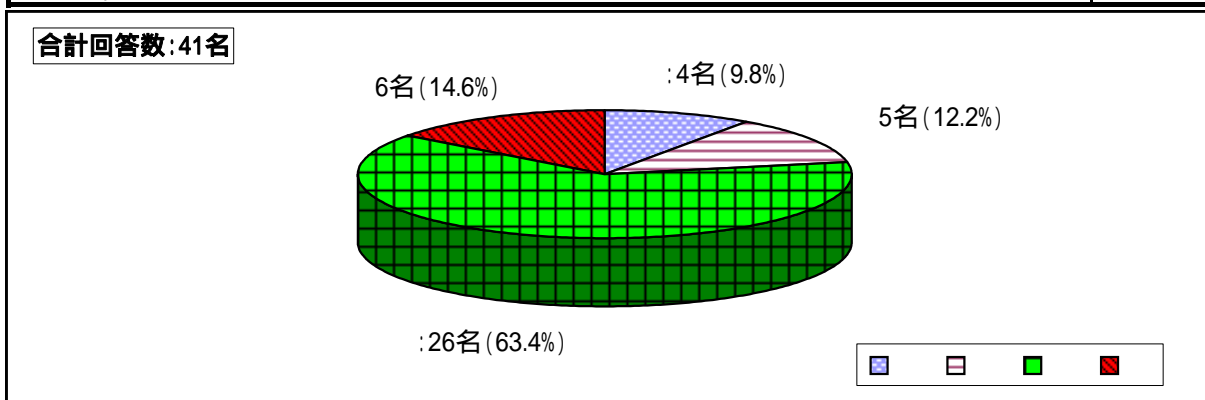
[広めていない理由]
 ・(省燃費運転では)仕事にならないとの意見が多い。

省燃費運転研修会フォローアップアンケート調査結果【2】

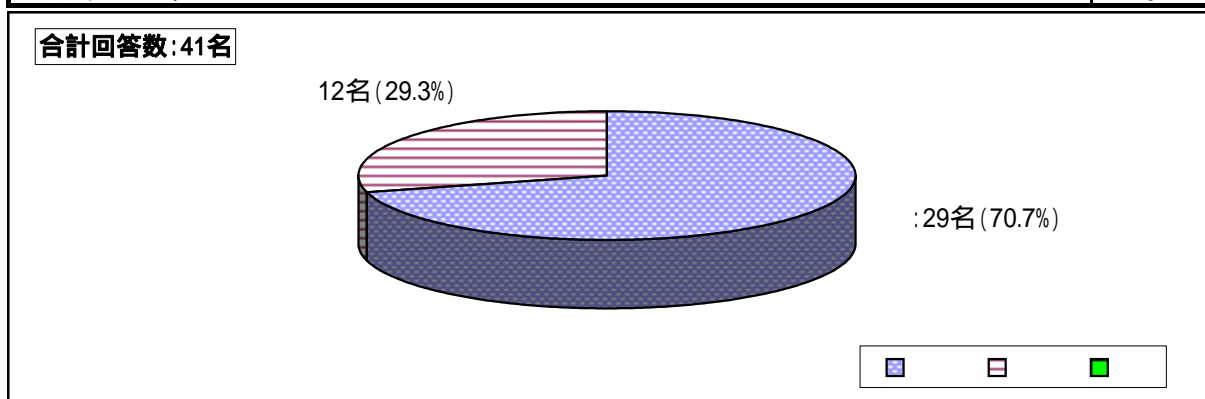
Q4. あなたの会社では、あなたの受けた省燃費運転研修会をどのような位置づけにしていますか。	回答数
研修会受講は昇進、昇給の一要素として評価している。	1
省燃費運転研修会を奨励しており、受講者増員のため自社開催も行っている。	11
他主体の行う省燃費運転研修会に対しても積極的に社員参加の要請を行っている。	25
省燃費運転研修会に対して興味を持っておらず、以前と変わらない。	3
わからない。	1



Q5. あなたの行っている現場から省燃費運転の実施の働きかけがありましたか。	回答数
省燃費運転研修会の開催があった。	4
新規入場者教育で資料配付と、説明があった。	5
アイドリングストップについて指導を受けた。	26
なにもない。	6
その他	0



Q6. 省燃費運転は燃料の節約に効果があると思いますか。	回答数
効果がある。	29
効果はあると思うが、実際に実行するのは難しい。	12
効果はない。	0



省燃費運転研修会フォローアップアンケート調査結果【3】

Q7. 今後、省燃費運転活動を続けていくためには、あなたはどんなことが必要だと思いますか。

[回答]

- ・省燃費運転研修会の開催を増やし広くアピールするとともに、現場等の新規入場者教育の一環として研修を実施する等、多くの人に参加してもらうことが大切と考える。また、研修会修了ステッカーを車輛等に貼り付けることを促し、省燃費運転に対する各ドライバーの意識向上につなげれば、よりいっそう効果があると考えている。
- ・省燃費運転研修会への参加する機会があれば、他の社員にも参加して欲しい。
- ・日々の管理を細かく分析し、時間、走行距離、燃料等々のデータを、運転手にわかりやすく説明できるかたちとし、周知していきたい。
- ・省燃費運転を実践して実感を持てば、継続できる。
- ・これまでと同じ(省燃費)運転を続けていく。
- ・省燃費運転について、皆に呼びかけることが必要。
- ・もっと多くの人に省燃費運転の方法を知ってもらうことが必要。
- ・赤信号での停車中はエンジンを切る(アイドリングストップ)、過積載をせずエンジンに負担をかけない運転に心がける。
- ・低価格入札が続く現在、燃料の高騰は業者にとって死活問題となっている。よって、省燃費運転は欠かせない活動であり、ドライバーへの協力を求めるとともに、教育、指導することが必要と思っている。また、ゆとりある運転作業を行えるよう、単価の見直しをお願いしたい。
- ・研修会には、運転手だけではなく、運行管理者も出席した方がよいと思う。
- ・会社の集會等で、運転手全員に研修会で教わったことを伝えたい。
- ・スピードを控えめに安全運転を行うことと、心の余裕が必要。
- ・アイドリングストップの実践が必要。
- ・効果については各自理解していると思うので、少しずつでも実践し定着化を図ることが必要。
- ・運転手の意識をもっと省燃費運転に振り向けることが必要。
- ・重機オペレーターの再教育や、新人等の人材育成の場で、広く働きかける(PRする)ことが必要。
- ・各現場で作業員全員が省燃費運転に取り組めるよう、元請の職員にも周知してもらえれば、活動は進むと思う。
- ・法廷速度を守り、空ぶかしをしないような運転を広めることが必要。
- ・省燃費運転を行った分、昇給するようなことが効果的であると思うが、現状の建設業の状態では難しいと考える。
- ・実際に省燃費運転を行うオペレーター等に何らかのメリットがなければ、活動を継続することは難しいと思う。
- ・運転手1人ひとりの心がけが大切。
- ・出来ることから始めて、徐々に活動内容を広げていけばよいと思う。
- ・定期的に短時間(週1回30分程度)の講習会を職場で行ってあげればよいのでは。
- ・省燃費運転ステッカーを全車両に貼り、意識の高揚を図ることが必要。
- ・もっと積極的に研修会を開催したほうがよいと思う。省燃費運転(研修会)について知らない人が多すぎる。
- ・省燃費運転を積極的に心がけ、同僚に広げていきたい。
- ・ギヤをこまめに入れ換えてオーバードライブで走行し回転数を上げない、積載オーバーに気をつける、一般道路では法廷速度、高速道路では80km/h以下で走行するというような運転方法を実施する。
- ・研修会をたびたび開催して、大勢の人々に参加してもらい、広めてほしい。
- ・メーカー、団体等でもっと研修会を開催し、できるだけ大勢の人に参加してほしい。
- ・みんなで実践することが最も重要であると思われる。
- ・「デジタコ」は走行中にどれだけ燃料を消費したかを計る優れたものであるため、まだ付けていない会社は付けるようにしてほしいと思う。
- ・自分の会社ではミーティングの際、積極的に燃費向上の話をしている。このような活動をいろいろな会社でやることにより、省燃費運転活動を続けていくことができると思う。
- ・当社では、各車輛にデジタコを取り付けて走行管理をデータ化し、1ヶ月あたりの走行距離と使用燃料を算出して燃費の具合をチェックすることにより、経済速度での走行を奨励している。また、積荷の過積載の禁止を取引先にもお願いしている。このような取り組みが必要。
- ・ディーゼルエンジンの場合、エンジンブレーキをかけた状態では燃料を消費しないということを研修会に参加するまで知らなかった。早めにアクセルを緩めるだけなので、アイドリングストップより簡単に実行できる省燃費運転方法であると思う。
- ・当社ではデジタコによる管理を実施しており、速度オーバー、長時間アイドリング、急加速、急停止等は減点となるため、各運転手が自覚を持ち、やさしい運転を心がけている。
- ・積載量を守り、ゆとりの運転で1段高めのギヤを使う、制限速度を守る等の運転方法が必要。
- ・研修会1回あたりの受講者数(運転者数)を増やすべき。管理者クラスの人材が他人のデータで学習し、自分の職場でフィードバック教育を行うことも効果があると思うが、やはり自分の実際の経験に勝る学習はないと思われる。
- ・きちんとした自覚を持つことと、小さな努力の積み重ねが必要であると思う。